

## 天野明弘先生との想いで

今泉 信宏

忘れもせぬ1995年4月関西学院大学に一番新しい学部総合政策学部が誕生した。しかも上ヶ原ではなく三田の地、そして神戸三田キャンパスと呼ばれた新天地。上ヶ原でできなかったことを始め、上ヶ原に新風を吹き入れる為だと聞かされた。教授陣も多彩。既存の学部から移籍してきた教授は数名。ほとんどは日本の他大学、官公庁、また海外の大学研究所やNGOから多数。スタッフも上ヶ原から厳選された精鋭の陣営。新しい学部にもふさわしい配置となった。しかし1995年1月の大震災で動揺もあった。新しい学部でありながらも、神戸三田キャンパスという新しい大学のキャンパスにしては余りにもインフラが整っていなかったこともあり、新学部発足には大きな期待と不安が入り混じっていた。

その新しい船出の舵取りを任されたのが神戸大学経営学部前学部長の天野明弘氏であった。準備会を数回重ね少しでも互いを知ろうと努力し、新たな出発に備えた。

震災後の瓦礫の中を門戸厄神から上ヶ原キャンパスまで縫うがごとく歩いて受験し、合格し入学してきた精鋭の学生396名。教員やスタッフ以上に学生の中には総合政策学という新たな学問分野に対する期待や夢が見て取れた。と同時に新しい学部に対する不安感も隠しきれなかった。しかしながら学生たちの中には既成の学問分野の壁を破って新たなものを構築していこうとする意欲と試みが潜んでいた。先輩も後輩もないキャンパスで学生と教員とスタッフのみ。天野先生を先頭に教授会では学生を迎え、教員と学生が共に歩むと言う学部の共生理念を確認し、教授と学生間の壁を少しでも低くし、できれば壁をなくし、学生

と教授のそれまで見られなかった新たな関係を築いていくことを決意したのであった。毎日教授の研究室は学生で溢れかえっていた。私自身の研究室のドアは年中開けっ放しで、学生が自由に出入りしていた。コーヒーを飲みながら将来への夢を何度も語り合った。ほとんどの教授はこのように学生と親しく交わっていた。

当時の国立大学で学部長を歴任した天野先生の中にも期待とある種の不安感があった様子であった。教授会での審議の中でも国立と私立の違いもあり、日本人と外国からの教授たちとの違いも鮮明にでてきたので、天野先生は相当苦勞されていた。しかし天野先生は新たな教授会、学生と教授のあり方に心を砕かれていた。クラブもサークルも無かった学部で我々は次から次と学生に語りかけ色々なサークルを作っていた。中でも学生たちが他のための存在になりたいという希望の元に創設されたエコハビタット関西学院(フィリッピン)の貧困地区での家建設活動)や三田ボランティアサークルは今日でも良き活動が続けている。

数年後に天野先生が癌で入院されたと知らされ、病院にお見舞いにいったときであった。暫くして帰ろうとした時、先生はもう少し学部、大学全体のことを話ししてくれと頼まれたが何よりも学生たちの事を心配されていた。学生たちは色々な事に挑戦している事をお話すると大変喜んでいらした。天野先生はインフラが整備されていない中で学生がどう学生生活を送っているのか、又チャペルには学生が出席しているのかなどを熱心に聞かれた。私はチャペル出席を強制はしていないがチャペルは毎回満員で両側に学生が立っていることを告げると満足された様子であった。

天野先生は「自分はクリスチャンではないが、関学の理念であるMastery for Serviceに惹かれ自分でMastery for Serviceの原文を私訳したので見てほしい。」と言われた。その訳は非常に優れた訳であった。それ以来、私は授業の中で新入生に必

ず英語と日本語の全文を配布し解釈を加え学生たちに関西学院の理念を少しでも理解してもらうように努めた。教授会でも同じものを配布し教授陣にも理解を求めた。これも天野先生の努力の賜物である。

天野先生との一番の思い出ではクリスマス礼拝である。当初クリスマスは上ヶ原キャンパスのみであった。しかし私は天野先生と協議の結果学生たちに語りかけ、5人のアンサンブル、10名のキャンパスクワイアーが結成され練習にはげみ、事務局の多大な助けを借り補正予算を頂き、第一回神戸三田クリスマス礼拝を開催する事ができた。クリスマスツリーはまだ枝が出てなかったが、神戸新聞社が取材に来た後学生たちと替え歌の校歌を歌い(神戸三田震え)礼拝後学生たちが飾りつけた食堂で三田市民を加え、500名ほどの人たちとクッキーと紅茶でクリスマスを祝う事ができた。天野先生もクワイアーに加わり共にクリスマスを祝う事ができたのは最高の思い出である。礼拝、祝会後はJR三田駅でクワイアーがクリスマスキャロルを歌ったのも良き思い出である。それから16年間毎年神戸三田キャンパスクリスマスは三田市民と共に続けられている。

天野先生は御自分の言い分よりも人の話に耳を傾けられていた。新しい学部だけに、上ヶ原でも問題に直面したが、先生は絶えず総合政策学部を想い、また学生の事をいつも気にかけておられた。総合政策学部をよくすれば、すなわち関西学院全体がよりよいインスティテューションに成長していくことを信じ、総合政策学部からどんどん新たな試みを発信していった。4年後の大学院設置にも心を砕かれ心労が絶えなかった。大学院一期生には71名以上の院生を迎えることもできた。

天野先生は退職後も数回入退院を繰り返し治療に専念されたが、他大学での公務も激務であった様子。電話で数回お話をしたが、先生の業績、貢献すべて素晴らしいものであるが、何よりも人と

しての天野明弘氏が素晴らしい方であったこと、そしてこのような素晴らしい方と同じ学部でともに歩む事ができ、今日の総合政策学部の基礎創りをすることができたことに対し心から感謝の意を表したく思う。神と共にあることを信じつつ。

今泉信宏(いまいずみ のぶひろ 元関西学院大学総合政策学部 教授)